

豊浦町地域づくり

地域支え合い
体制づくり事業

豊浦町地域支え合い体制づくり事業とは、ひとり暮らしの高齢者や高齢者夫婦世帯の増加など近隣付き合いの希薄化が進んでいるなか、近隣住民を軸に自治会、学校、郵便局、警察、消防、介護サービス事業者、社会福祉協議会など社会資源のネットワーク化を図り、高齢者等が住みよい地域を確立することを目的としており、講演会や地区別勉強会、搜索訓練等を通じて住民意識の高揚を図っています。

まえ合い
その3

徘徊模擬訓練

10月16日(水)、地域支え合い体制づくり事業SOSネットワーク徘徊模擬訓練が、浜町集会所で行われました。認知症の人を地域で見守るためのこの訓練では、在宅や施設に入所している認知症の高齢者の徘徊を想定し、地域住民や福祉施設職員、行政関係者等約50名が参加しました。

高齢者や認知症の人が、地域で安心して安全に暮らせるよう、地域住民や関係機関のSOSネットワークづくりを進めるために、特別養護老人ホーム幸豊園の行徳秀和施設長を講師に、徘徊者の搜索や保護する際の注意点、釧路市の搜索事例や認知症高齢者への接し方などについて、大切な3つの心得として「驚かせない、急がせない、自尊心を傷つけない」を挙げ、初動コミュニケーションでは、笑顔で「おはようございます、こんにちは、こんばんは」のあいさつを忘れないようにとアドバイスをしました。

また、徘徊者が発生した場合の警察への届け出について、伊達警察署生活安全課の皆さんが寸劇を交えてわかりやすく解説しました。



声かけの練習をする参加者

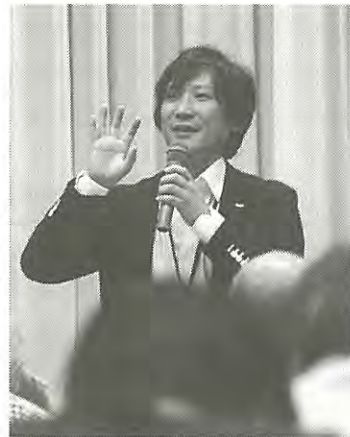
まえ合い
その1

講演会

10月18日(金)、「ご近所のつながりづくり」と題した地域支え合い体制づくり事業講演会が、豊浦町社会館で開催されました。近年、社会情勢の大きな変化の中で、少子高齢化、核家族化、価値観の多様化などにより、地域の連帯感や絆が薄れはじめ、地域が本来持っていた助け合いも弱まりつつあります。

講演会では、講師に北海道社会福祉協議会地域福祉課の松岡直記氏をお招きし、地域の連帯が希薄になっていることについてわかりやすくお話していただきました。地域とは、人のつながりであり、かつては自然に生まれていたつながりは、今は意識的に仕掛けて生み出していかなければ「地域」が消滅していくことになりかねません。「支え合い」とは、お互いさまのことで、人が明確な支えを必要としないで生きられるのは人生の中でもごく限られた期間であり、子どもや高齢者は支えが必要になります。このような「お互いさま」の考えを小さい頃から伝えていくという福祉教育の大切さを今回の講演会で学ぶことができました。

豊浦町では、昨年度より、高齢者の地域社会とのつながりや支援が必要な方々を地域で見守り、支える体制を構築する地域支え合い体制づくり事業推進協議会(栗山明男会長)を立ち上げ、講演会の他にボランティア養成講座や地域勉強会等を開催しています。



講師の松岡直記氏

まえ合い
その2

地域勉強会

11月6日(水)、7区、8区、船見ヶ丘東、船見ヶ丘西自治会を対象にした地域支え合い体制づくり事業地域勉強会が社会館で開催され、対象地区の住民約30名が参加しました。

講師に、地域のつながりづくりにおいて先進的な活動をしている白老町から白老町社会福祉協議会の牧主幹、東萩野町内会の吉田会長をお招きし、白老町社協での小地域ネットワーク事業の取り組みや東萩野町内会での町内会活動の実践例を詳しく紹介していただいたほか、それぞれの自治会の現状やこうあればいいなと思うことなどについて皆で考え話し合いました。



白老町の実践例を熱心に聞く参加者